

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471901411
法人名	社会福祉法人 心の会
事業所名	さくらの家二番館
訪問調査日	2015年11月26日
評価確定日	2016年2月29日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901411	事業の開始年月日	平成14年5月1日	
		指定年月日	平成14年5月1日	
法人名	社会福祉法人 心の会			
事業所名	さくらの家二番館			
所在地	(238-0026)			
	横須賀市小矢部4-15-8			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月3日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらの名所、衣笠山近くの自然にめぐまれた環境にあります。二番館からの景色はすばらしく、桜や新緑、紅葉が楽しめます。ご利用者様が多くの方々と関わり、笑顔で楽しく暮らせるように、お一人お一人の個性に気を配っております。季節にあった行事を共に楽しみ、旅行に行ったりもします。動物と一緒に住み、触れ合うことでご入居者の癒しとなっております。地域の方々と一緒に餅つき大会や秋祭りを楽しみ、交流の場を深めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年11月26日	評価機関 評価決定日	平成28年2月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このグループホームの経営は社会福祉法人「心の会」です。同法人は法人設立の原点である障がい者福祉に加えて高齢者福祉の分野で、横須賀の指導的な立場で事業を展開しています。障がい者福祉は「あすなろ学苑」(就労継続支援B型)を中心に「あすなろの家」(障がい者グループホーム5ユニット)展開し、高齢者福祉では在宅福祉センターの「さくらの里」を中心に、ユニット型特別養護老人ホーム「さくらの里山科」、高齢者グループホーム「さくらの家一番館」、「さくらの家二番館」、「さくらの家三番館」の他、在宅支援事業、居宅介護事業を展開しています。さくらの家二番館では、法人の理念を基に3グループホーム共通の理念として「利用者を尊重した、暖かい家庭的な介護」をモットーに、利用者との信頼関係がしっかりと築かれおり、この為ホーム全体に落ち着いた和やかな雰囲気が見受けられます。

②地域との付き合いについては、この地域にこの法人の種々の事業体が集中しており、また、開所以来9年も経過していることから、地域の住民には、周知されています。町内会の行事への参加や掃除のお手伝い、ホームの納涼祭やもちつき会への地元住民の参加、避難訓練の相互参加などを通して交流は深まっています。さらに、地域の中学生・高校生の体験学習も積極的受け入れ、調査日当日も、体験学習の中学生が4名来ており、利用者は楽しそうに交流していました。地域のボランティアも、折り紙や傾聴など、定期的に来訪があり、利用者に喜ばれています。

③ケアについては、利用者が楽しく暮らせることを念頭に置き、外出の機会を出来るだけ多くしています。ご家族の協力も得て、毎月企画を検討し、旅行・外食を心がけています。また、自然豊かな静かな環境を楽しみながら毎日散歩を行い、見晴らしの良いホームの屋上では広いスペースを生かし、外気浴やバーベキュー会を催し、利用者が楽しめる機会を提供しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	さくらの家二番館
ユニット名	二番館2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊重と人生の充実。自分の家と同じようなあたたかく家庭的で地域との関わりを大切にする。人生を楽しむことのできるお手伝いを目指す。」を事業所独自の理念としています。また、法人理念と共に、毎年職員に対し理念の再確認とケアの方向性について学習の機会を作っています。職員はご入居者様へのケア、近隣との交流などを理念に沿って実施しています。	事業所の理念として「個人の尊重と人生の充実。自分の家と同じようなあたたかく家庭的で地域との関わりを大切にする。人生を楽しむことのできるお手伝いを目指す。」を掲げ、職員には入職時に十分に説明を行い、「理念カード」を配布して常に携帯し、理念の具現化に努めています。また、「個人の尊重」の実現のため、「その人の過去を知り、今を見つめ、その人のサインを見逃さない」ための具体的な行動ができる体制を作り上げています。職員は「利用者の為に」を共感し、行動で示し、自ら楽しめるホームであることを実感して長年の勤続者も多いです。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退勤・散歩時などの挨拶を励行し、実施している。秋祭り・観光バス旅行などの大きな行事には、地域の方々の協力を頂いている。事業所からは、町内の掃除など行事に参加している。保育園との交流もあり、お遊戯会などへのご招待を受け、参加している。	自治会が広域の町内会となり、活動は希薄となってきました。現状では「桜を守る会」の掃除への参加や、避難訓練の手伝い程度となっていますが、町内会とは関係なく、近隣とは良好な関係が保たれ、秋祭りや観光バス旅行などの大きな行事に地域の方々の協力を頂いています。保育園との交流もあり、お遊戯会などへの招待を受け、参加しています。12月初旬にデイサービス中心に近所の方を交えて餅つき大会を行い交流を持っています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて、認知症の方との関わりをもってもらい、認知症の理解を少しでも得てもらうよう心がけている。車椅子の操作方法等も地域の方々に伝え支援に向けて生かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所会議では、地域との意見交換を行い、そこで出たアイデアの防災訓練・秋祭りを実施したりとサービス向上につなげている。	年6回の運営推進会議は定着しており、地域との意見交換を行い、そこで出たアイデア（防災訓練・秋祭り等）を実施し、サービス向上に繋がっています。運営推進会議のメンバーは民生委員、地域代表、ご家族それにホーム関係者で行っています。横須賀市役所の担当者もメンバーとして参加してもらっていますが、平均すると年1回程度の参加となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所と行政との連携を取っている組織のグループホーム協議会があり、防災ネットワークの立ち上げなど行政との連携をとり、一体となって行っている。協議会の役員として、三番館の管理者が参加している。	横須賀市グループホーム連絡協議会があり、行政と連携をとりながら積極的な活動を行っています。連絡協議会が中心となって防災ネットワークの立ち上げ、防災訓練の協力を行っています。さくらの家グループホームから毎年、連絡協議会の役員を引受けており、昨年はさくらの家二番館が副会長を担い、今年にはさくらの家三番館が役員を引受けています。連絡協議会には横須賀市も参加しており連携も良好です。地域包括支援センターとは入居者相談、困難事例相談など密に連携を図っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加している。その後内部研修を行い正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施している。明らかな拘束だけでなく、言葉遣いなどの精神面についても話し合い、理解を深める様に取り組んでいる。	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加し、研修後は内部研修を行い、正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施しています。明らかな拘束だけでなく、言葉遣いなどの精神面についても話し合い、理解を深めるように取り組んでいます。玄関のドアは日中は開放しています。帰宅願望を押えるのではなく、帰宅願望が起らないケアを進めています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての外部研修へ積極的に参加し、内容については、フロア会議で取り入れ現場の対応で問題がないか、常に確認している。虐待に関して、理解できていない所を繰り返す様にしていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や、フロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、実際に活用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で、一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様になっている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催している。制度の改正や法人の方針などを報告し、全体的な意見等を頂ける様になっている。細かな意見については、懇親会形式で各ユニットが実施し、身近な意見やユニット独自の意見の吸い上げを行い、運営に生かしている。入居者ご家族にて、ご家族のみの家族会（つぼみ会）を発足している。	利用者ご家族で家族会（つぼみ会）を発足しています。同法人のグループホーム3か所がほぼ同じ場所にあるので、3ホーム合同で自主的に結成しました。法人としては年1回、法人の家族会を開催し、制度の改正や法人の方針などを報告し、全体的な意見等をお伺いしています。つぼみ会独自の打合せも持っています。つぼみ会は春にはバザー（売上金を協力してくれています）、秋まつりの手伝いなど、グループホームと一体となって活動してくれています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人調整会議に管理者が参加して、フロア会議等で出た意見を提案できる場が設けられている。また、積極的に職員の意見等を集約して反映に努め、サービスや働きやすい職場環境の向上に努めている。	毎日の申し送りを重視しており、日常ケアを細かに連絡することにより、職員間の共通認識を確立しています。意思を決定する時はフロア会議等、会議で決定を下しています。管理者は、職員との対話を大事にし、働きやすい職場環境の向上に努めています。毎年、年度変わりの時期には、一人一人個別面談（パートの方は契約更新面談）を行い、職員の意向を聞いています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年法人の職員総会があり、管理者が職員の勤務の状況などから推薦した職員の表彰があります。新たな資格の取得者に対しては、手当と表彰があり、正職員への昇格などの機会も得られるなど労働の環境や条件の整備がなされています。また評価給の導入を行い、成績優秀な者については、給与面で優遇される仕組みを採って			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップに必要な研修については、事務局より要請があり、管理者が適正に応じて常勤・非常勤職員に勉強の機会を設けている。職員からの研修参加希望も、取り入れている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市には、グループホーム連絡協議会があり、研修会を実施している。その中で交流をもつ機会が設けられている。他のグループホームの研修会にも職員が参加している。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などをご本人様に説明し、困難や要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問し、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様の話をよく聞き、信頼関係をつくる努力をするとともに、ご家族様のニーズなどを理解できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や見学・体験の際に状況をお聞きして、困難などの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や買い物などをして生活を共有したり、若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いたりしている。理念として、入居者様が楽しんで頂く支援をしている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に職員のみ意見だけではなく、ご家族様と相談しながら行っている。病院受診や行事などにも参加して頂くなど共に支え合っている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。	馴染みの人や場との関係継続については、利用者の知人（同僚、同級生など）の訪問もあり、手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れないようにしています。面会は常に受け入れ、ゆっくりと過ごして頂けるよう配慮しています。基本的にはご家族の来所が多く、利用者のご家族との外出等を楽しみにしています。美容では美容師に来院してもらい希望者が利用しています。入居者は衣笠の方が多く、衣笠の名所をご存じで、ドライブすると喜んで懐かしむ機会になっています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、トラブルを未然に回避するようにしている。座席など環境を工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が間に入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方への面会やお葬式などに参加させて頂き、関係が継続できる様に経過のフォローに努めている。ご逝去され退居されたご家族が朗読のボランティアを続けて下さっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報、ご本人様の思いや希望などを聞き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情・行動などから察して、ご本人様の思いに沿えるよう会議等で出来る事を見つけ支援につなげている。	日常の会話や家族からの情報などから本人の思いや希望などを聞き、職員全員で把握するように努めています。「24時間シート」を作り、言った言葉をリアルタイムに記録しています。冷蔵庫に欲しいもののメモが貼ってあり買にいきます。お散歩時に「髪を染めたい」と言えば美容院に連れていきます。生活記録を大事にしています。困難な方でも表情・行動などから察して、本人の思いに沿えるよう会議等で出来る事を見つけ支援につなげています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初に把握している生活歴と、生活の中でのご本人様との会話から、昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聞いたりして、新たな情報を集めている。ご家族様にも、ご本人様との会話の中のやり取りを伝え、新たな情報を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をケースにとり、個人の症状や状態の情報を集めている。毎日の個々の申し送り・毎月のカンファレンス・フロア会議にて状況を把握、確認し、ご本人様の力に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、ご家族の希望やご本人様との会話などからの希望に沿って検討している。医師や看護師などにも相談して、様々な角度から検討し、その人らしい生活が送れる様になっている。	介護計画は第1表、第2表の定形のものを利用してはいますが、基本情報・評価の充実を心がけています。介護計画はケアマネ中心に作成し、会議で職員の意見を聞き、ご家族に相談して作成しています。利用者のその人らしい生活が送れるよう、医師や看護師からの意見を加味し、管理栄養士にはカロリーを考えたプログラムを作成してもらい、午後にはボランティアが来訪の際は午前中に入浴を計画する等、有機的な介護計画を心がけています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践、結果、気づき等は、個別の記録に記入し、申し送りにて毎日新しい情報の共有をしている。更に、記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。日中は黒ペン・夜間は青ペン・医療は赤ペン・看護師記録は蛍光で囲むなどして見易さなどの工夫を行い、情報の共有に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別にご家族の状況やご本人の希望について、その都度柔軟な姿勢で相談にのり、対応を心がけている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや自治会などとの交流が盛んな事から、お互いが顔見知りです。散歩や喫茶店など安心して楽しむ事が出来ている。地域の中学校からの職場体験などを受け入れる事で楽しみも得られている。			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族様の納得の上で変更をして頂き、適切な医療を受けられる様になっている。	利用者の意向で主治医を決め、それぞれの主治医の診療を受けています。主治医の選択をする際は希望が無い場合は、提携訪問医をお知らせしています。（強制はしていません）医療では、内科の他に精神科、歯科の往診があり、看護師については「さくらの家」3ホーム共通で週3回、1ユニット2時間程度で巡回訪問しているので、緊急の場合には速やかな対応が可能です。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に重度化・看取りに関してを具体的に明記し、事業所で出来る対応を明確にしている。かかりつけ医とも協力し、ご家族様の希望に沿う様、身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施している。	重要事項説明に重度化・看取りに関して具体的に明記し、事業所で出来る対応を明確にしています。看取りについては必ずしもホームに限らないスタンスを持ち、色々な選択肢を示し、その方に合ったどの方法がベストかを一緒に考えるようにしています。施設、さくらの家二番館、在宅などの選択肢があることも伝え、かかりつけ医とも協力し、ご家族の意向に沿えるようにしています。利用者の身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様一人一人の緊急マニュアル・応急手当マニュアルを作成して、速やかに対応できるように工夫している。看護師を中心に、各ユニットごとに内部研修を行い、緊急時等の対応に備えている。毎夜救急時対応の職員を置き（当番制）すぐに対応できる体制を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年1回は、地域合同の避難訓練を実施している。消防署を呼び、訓練の指導を受け、ガレキ撤去の体験など地域の方と協力した、自助防災を強化している。本格的なライフラインが停止した場合の炊き出しの訓練を行っている。2回目は、夜間想定を中心に行い、事業所会議では、協力して頂ける様に関係を築いている。	毎年2回（2回目は夜間想定）、地域合同の避難訓練を実施しています。消防署に協力を依頼し、指導を受けています。また、ガレキ撤去の体験など地域の方と協力し、自助防災能力の強化を図っています。本格的なライフラインが停止した場合を想定し、炊き出しの訓練も行っています。運営推進会議でもメンバーに協力を依頼し、協力体制が築けるよう関係を構築しています。備蓄では水、米、乾パン、缶詰などの食料品、パット等の衛生材料、ランタン、炭などの器具を保有しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居様が主体となる生活を支援し、その方の育ってきた背景を大切にしている。個人の性格に合った言葉かけや対応を心がけている。	利用者が主体となる生活を支援し、一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損ねることがないように、個人の性格、その方の育ってきた背景を大切に、言葉かけや対応に配慮しています。親しさと敬語、それぞれの範疇を見極め、踏み外さないよう常々気をつけています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や買い物希望などの意志表示に対して、タイムリーに支援を行う事で、希望を出しやすい環境に努めている。飲み物などでは、好きな飲み物だけでなく、味の好みまで意識した働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。入浴の希望の時間や回数・散歩や余暇活動などの支援など意向に添うケアを取り入れ実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに合った洋服で生活して頂いている。ヘアースタイルでは、パーマや毛染めなども行い、おしゃれへの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かして、出来ることを主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどの、食事の支度を一緒に行っている。一緒に準備した食事を職員も同じテーブルでとり、楽しみの幅が広げられる様に支援している。食後の片付けも一緒に行っている。	食事はグループホーム生活の大きな生きがいの1つと考え、ニーズに応じた食事の提供を心がけています。自前のメニューで栄養士と連携して献立を決めています。一人ひとりの力を生かして、出来ることを主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどの、食事の支度を一緒に行ってもらっています。一緒に準備した食事を職員も同じテーブルでとり、楽しみの幅が広げられる様に支援しています。食後の片付けも一緒に行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、チェック表を作成し確保出来るように支援している。個別に、減塩・捕食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・介助などに分けて、実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握しています。暮らしぶりを、生活記録をチェックし、それに合わせた対応を行い、確認することにより、失禁させないケアが実現できています。日中は殆ど失敗はありません。声かけ、定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。繊維物や水分の摂取・運動、ラジオ体操など個別に行い予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方の希望を基本に好きな時間（午前・午後・就寝前）・回数・順番など好みに合わせた入浴を提供している。入浴は、ほぼ毎日実施していて、その日の希望に対しても実施している。	その方の希望を聞き、基本的に好きな時間（午前・午後・就寝前）・回数・順番・同性介助など好みに合わせた入浴を提供しています。寝る前を希望する方には職員のシフトを調整して対応する等、柔軟に個々に応じた入浴の支援を行っています。シャンプーなども好みに応じたものを使用して支援しています。入浴は、ほぼ毎日実施しており、週2～3回を目途に個々の希望に対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力や状態に合わせて行っている。就寝起床時間は生活リズムに合わせて、個々のタイミングで支援し、日中に外気浴を行うなどして安眠に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や漢字・料理・洗濯など得意としている事への場面づくりの支援をしている。天気の良い日の散歩やコーヒーなどの嗜好品の提供など支援をしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力により、外食や知人への訪問などをして頂いている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。	食材などの買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出る機会を設けています。また、ご家族様の協力を仰ぎ、外食や知人への訪問などをしてもらっています。バス旅行の際もご家族の協力を得て実行しています。外出では、横須賀美術館に行き、観賞を楽しみ、帰りはケーキを食べて岐路につく等、外出を楽しむ機会をつくっています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会参加として大切なので、能力に応じてご自身で買い物をして頂いている。お金を自己管理している方もいて、能力に応じた支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけたたり、受けた電話を本人に回したりと支援している。手紙も自由にやり取り出来る様にしている。必要に応じて代筆等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家全体が落ち着いた家庭的な雰囲気になっている。照明にも刺激の無いように配慮している。ご入居者様の馴染みのある物や季節の草花・作品などを飾り、温かい空間作りを行っている。	ホームは3階建てで、1階（立地的に斜面を利用しているので3階が玄関となります）には事務棟があり、2階、3階の2ユニットのグループホームです。ホーム全体は落ち着いた家庭的な雰囲気であり、照明は刺激が無いように配慮し、快適な空間を醸しています。リビングには利用者の馴染みのある物や季節の草花、作品などを飾り、温かみのある空間作りを行っています。飾る位置は利用者の伸長を考慮し、低めに飾るよう配慮されています。管理者は「利用者自身の、自分たちの生活空間を守ってあげたい」と心がけています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるソファがあり、利用者同士が過ごしたり、1人になれる場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に工夫している。	各居室に洗面台が設備され、自宅で使い馴れた家具等を自由に持ち込み、利用者自身が安心して過せるよう、ご家族と相談して配置しています。安全に十分配慮し、生活しやすいように工夫されています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で歩行の導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。部屋の入口に名札等を飾って自室の確認が出来る様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

さくらの家二番館

作成日

2016年2月23日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	9 18	24時間の情報を共有して、暮らしをより充実していく。	24時間の情報を共有して、暮らしのニーズや希望をより、細かく捉え、生活の充実につなげることができる。	記録の創意工夫をして、情報を集め、会議で検討を行い、支援につなげていく。	12ヵ月
2	2 29	地域との連携。協力関係の確認、構築	地域と一体となった事業所としての活動ができる。	地域の活動に率先して参加し、地域の一員として活動を行う。日々の交流にて、良好な関係づくりを行う。	12ヵ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	さくらの家二番館
ユニット名	二番館3F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊重と人生の充実。自分の家と同じようなあたたかく家庭的で地域との関わりを大切にする。人生を楽しむことのできるお手伝いを目指す。」を事業所独自の理念としています。また、法人理念と共に、毎年職員に対し理念の再確認とケアの方向性について学習の機会を作っています。職員はご入居者様へのケア、近隣との交流などを理念に沿って実施しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退勤・散歩時などの挨拶を励行し、実施している。秋祭り・観光バス旅行などの大きな行事には、地域の方々の協力を頂いている。事業所からは、町内の掃除など行事に参加している。保育園との交流もあり、お遊戯会などへのご招待を受け、参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通じて、認知症の方との関わりをもってもらい、認知症の理解を少しでも得てもらうよう心がけている。車椅子の操作方法等も地域の方々に伝え支援に向けて生かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所会議では、地域との意見交換を行い、そこで出たアイデアの防災訓練・秋祭りを実施したりとサービス向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所と行政との連携を取っている組織のグループホーム協議会があり、防災ネットワークの立ち上げなど行政との連携をとり、一体となって行っている。協議会の役員として、三番館の管理者が参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加している。その後内部研修を行い正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施している。明らかな拘束だけでなく、言葉遣いなどの精神面についても話し合い、理解を深める様に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての外部研修へ積極的に参加し、内容については、フロア会議で取り入れ現場の対応で問題がないか、常に確認している。虐待に関して、理解できていない所を繰り返し行う様になっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や、フロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、実際に活用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で、一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様にしている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催している。制度の改正や法人の方針などを報告し、全体的な意見等を頂ける様にしている。細かな意見については、懇親会形式で各ユニットが実施し、身近な意見やユニット独自の意見の吸い上げを行い、運営に生かしている。入居者ご家族にて、ご家族のみの家族会（つぼみ会）を発足している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人調整会議に管理者が参加して、フロア会議等で出た意見を提案できる場が設けられている。また、積極的に職員の意見等を集約して反映に努め、サービスや働きやすい職場環境の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年法人の職員総会があり、管理者が職員の勤務の状況などから推薦した職員の表彰があります。新たな資格の取得者に対しては、手当と表彰があり、正職員への昇格などの機会も得られるなど労働の環境や条件の整備がなされています。また評価給の導入を行い、成績優秀な者については、給与面で優遇される仕組みを採っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップに必要な研修については、事務局より要請があり、管理者が適正に応じて常勤・非常勤職員に勉強の機会を設けている。職員からの研修参加希望も、取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市には、グループホーム連絡協議会があり、研修会を実施している。その中で交流をもつ機会が設けられている。他のグループホームの研修会にも職員が参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などをご本人様に説明し、困難や要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問し、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様の話をよく聞き、信頼関係をつくる努力をするとともに、ご家族様のニーズなどを理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や見学・体験の際に状況をお聞きして、困難などの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や買い物などをして生活を共有したり、若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いたりしている。理念として、入居者様が楽しんで頂く支援をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に職員のみ意見だけではなく、ご家族様と相談しながら行っている。病院受診や行事などにも参加して頂くなど共に支え合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、トラブルを未然に回避するようにしている。座席など環境を工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が間に入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方への面会やお葬式などに参加させて頂き、関係が継続できる様に経過のフォローに努めている。ご逝去され退居されたご家族が朗読のボランティアを続けて下さっている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報、ご本人様の思いや希望などを聞き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情・行動などから察して、ご本人様の思いに沿えるよう会議等で出来る事を見つけ支援につなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初に把握している生活歴と、生活の中でのご本人様との会話から、昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聞いたりして、新たな情報を集めている。ご家族様にも、ご本人様との会話の中のやり取りを伝え、新たな情報を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をケースにとり、個人の症状や状態の情報を集めている。毎日の個々の申し送り・毎月のカンファレンス・フロア会議にて状況を把握、確認し、ご本人様の力に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、ご家族の希望やご本人様との会話などからの希望に沿って検討している。医師や看護師などにも相談して、様々な角度から検討し、その人らしい生活が送れる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践、結果、気づき等は、個別の記録に記入し、申し送りにて毎日新しい情報の共有をしている。更に、記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。日中は黒ペン・夜間は青ペン・医療は赤ペン・看護師記録は蛍光で囲むなどして見易さなどの工夫を行い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別にご家族の状況やご本人の希望について、その都度柔軟な姿勢で相談にのり、対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや自治会などとの交流が盛んな事から、お互いが顔見知りです歩や喫茶店など安心して楽しむ事が出来ている。地域の中学校からの職場体験などを受け入れる事で楽しみも得られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族様の納得の上で変更をして頂き、適切な医療が受けられる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に重度化・看取りに関してを具体的に明記し、事業所で出来る対応を明確にしている。かかりつけ医とも協力し、ご家族様の希望に沿う様、身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様一人一人の緊急マニュアル・応急手当マニュアルを作成して、速やかに対応できるように工夫している。看護師を中心に、各ユニットごとに内部研修を行い、緊急時等の対応に備えている。毎夜救急時対応の職員を置き（当番制）すぐに対応できる体制を作っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年1回は、地域合同の避難訓練を実施している。消防署を呼び、訓練の指導を受け、ガレキ撤去の体験など地域の方と協力した、自助防災を強化している。本格的なライフラインが停止した場合の炊き出しの訓練を行っている。2回目は、夜間想定を中心に行い、事業所会議では、協力して頂ける様に関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様が主体となる生活を支援し、その方の育ってきた背景を大切にしている。個人の性格に合った言葉かけや対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や買い物希望などの意志表示に対して、タイムリーに支援を行う事で、希望を出しやすい環境に努めている。飲み物などでは、好きな飲み物だけでなく、味の好みまで意識した働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。入浴の希望の時間や回数・散歩や余暇活動などの支援など意向に添うケアを取り入れ実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに合った洋服で生活して頂いている。ヘアスタイルでは、パーマや毛染めなども行い、おしゃれへの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かして、出来ることを主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどの、食事の支度を一緒に行っている。一緒に準備した食事を職員も同じテーブルでとり、楽しみの幅が広げられる様に支援している。食後の片付けも一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、チェック表を作成し確保出来るように支援している。個別に、減塩・捕食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・介助などに分けて、実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。繊維物や水分の摂取・運動、ラジオ体操など個別に行い予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方の希望を基本に好きな時間（午前・午後・就寝前）・回数・順番など好みに合わせた入浴を提供している。入浴は、ほぼ毎日実施していて、その日の希望に対しても実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力や状態に合わせて行っている。就寝起床時間は生活リズムに合わせて、個々のタイミングで支援し、日中に外気浴を行うなどして、安眠に努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や漢字・料理・洗濯など得意としている事への場面づくりの支援をしている。天気の良い日の散歩やコーヒーなどの嗜好品の提供など支援をしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様の協力により、外食や知人への訪問などをして頂いている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会参加として大切なので、能力に応じてご自身で買い物をして頂いている。お金を自己管理している方もいて、能力に応じた支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけたり、受けた電話を本人に回したりと支援している。手紙も自由にやり取り出来る様にしている。必要に応じて代筆等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家全体が落ち着いた家庭的な雰囲気になっている。照明にも刺激の無いように配慮している。ご入居者様の馴染みのある物や季節の草花・作品などを飾り、温かい空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるソファがあり、利用者同士が過ごしたり、1人になれる場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で歩行の導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。部屋の入口に名札等を飾って自室の確認が出来る様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

さくらの家二番館

作成日

2016年2月23日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	9 18	24時間の情報を共有して、暮らしをより充実していく。	24時間の情報を共有して、暮らしのニーズや希望をより、細かく捉え、生活の充実につなげることができる。	記録の創意工夫をして、情報を集め、会議で検討を行い、支援につなげていく。	12ヵ月
2	2 29	地域との連携。協力関係の確認、構築	地域と一体となった事業所としての活動ができる。	地域の活動に率先して参加し、地域の一員として活動を行う。日々の交流にて、良好な関係づくりを行う。	12ヵ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。